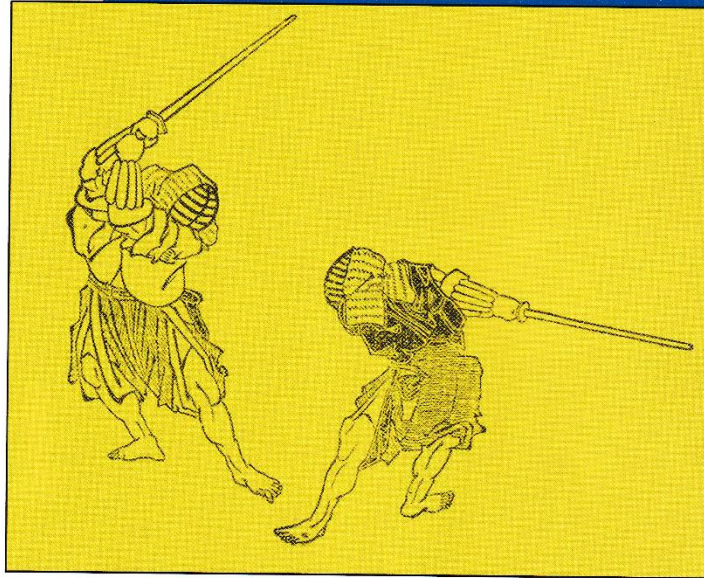


第 47 回企画展

北武蔵剣術物語

～川越藩剣術師範大川平兵衛とその時代～



令和元年 10 月 12 日(土)
～11 月 24 日(日)

川越市立博物館

現在川越市では、川越市市政施行100周年記念事業を展開しています。

基本方針に、みんなで川越の歴史や伝統にふれよう。

川越の歴史や伝統を学び、先人の思いを未来につなげるような事業を実施しますとあります。

川越博物館第47回企画展「北武蔵剣術物語」～川越藩剣術師範大川兵衛とその時代～のパンフレットを川越博物館の許可を得て、川越市剣道連盟のホームページに掲載します。

北武蔵剣術物語～川越藩剣術師範大川兵衛とその時代～は川越博物館で販売しています。

令和4年7月31日

川越市剣道連盟

プロローグ 幕末という時代

通商を求める黒船の来航、安政の大獄や桜田門外の変などの政争、安政の大地震やコレラの流行などの災害や疫病、幕末は内外に問題を抱えて日本が大きく揺れ動いた時代でした。一方、商品流通の発展、社寺参詣の流行など人と物の動きが活発となった時代でもありました。人々は心に不安を抱えながらも、新しい趣味や娯楽を求めていました。こうした時代、防具・竹刀を用いた稽古法「撃剣」を行う新流と呼ばれる剣術流派が誕生し、武士だけでなく庶民の間でも広く学ばれるようになりました。

I 幕末剣術事情

これまでの剣術流派が定められた形を繰り返すことにより、教を伝えてきたのに対して、新流では、防具を着けて互いに竹刀で打ち合う「撃剣」と呼ばれる稽古が盛んに行われるようになりました。どこでも、だれでも、安全に稽古できるようになり、勝負を競う面白さもはげみとなって、武士だけでなく庶民も剣術を学ぶようになりました。また、近隣の町や村に出向いて稽古したり、全国を旅して巡り、他流派の門人と手合せする「廻国修行」をする者たちも現れました。

II 北武蔵の剣術流派

北武蔵と呼ばれた現在の埼玉県域でもさまざまな剣術流派が栄えました。岡田惣右衛門奇良が創始した柳剛流は、下戸田村(現:戸田市下戸田)に道場を構えた岡田十内叙吉によって県南部に勢力を広げ、県北部の児玉郡には真之真石川流・神武一刀流・奥山念流などが興りました。また、秩父郡薄村(現:小鹿野町 両神薄)を中心とした県西部では逸見太四郎義年を祖とする甲源一刀流が剣脈を伝え、県東部の埼玉郡上清久村(現:久喜市上清久)では神道無念流の戸賀崎熊太郎暉芳一門が竹刀の音を響かせていました。

III 川越藩剣術師範 大川平兵衛

横沼村(現:坂戸市横沼)の大川平兵衛は神道無念流秋山要助の高弟でした。当時、川越藩は天保13年(1842)の相模湾警備を契機に武芸の刷新に着手し、平兵衛を藩士として召し抱えます。そして、文久2年(1862)には藩の剣術師範に任じました。平兵衛は榛澤郡下手計村(現:深谷市下手計)などにもしばしば出稽古に出かけ、渋沢栄一・尾高惇忠など近代日本の基礎を築いた偉人たちにも剣を教えました。また、維新後、前橋では門人たちにより養気館が設立され、平兵衛の教えは受け継がれていきました。

IV 剣術から剣道へ

明治維新を迎えると、剣術は戦いの技術としての意味を失い存在意義を問われます。その答えのひとつは心を育てる修養としての剣道・もうひとつは身体を育てる体育・競技としての剣道です。秩父出身の小野派一刀流高野佐三郎は剣道の普及に尽力し、川越をはじめ各地に明信館道場を設立します。また、高野門下の剣士で新河岸川舟運福岡河岸の福田屋の主人星野仙蔵は、衆議院議員となり、北埼玉郡桑崎村(現:羽生市桑崎)の小澤愛次郎とともに剣道の学校教育への採用に尽力しました。

エピローグ 伝えられる剣術の記憶

県内各地には、かつて村々で学ばれていた在郷剣術を彷彿とさせる民俗芸能が伝えられています。原馬室のささら獅子舞・棒術(鴻巣市原馬室)や中妻の獅子舞・棒術(久喜市中妻)などは悪疫退散・五穀豊穰を祈る獅子舞に付随して演じられます。原馬室のささら獅子舞・棒術の演目には現在の居合道・剣道・杖道に当たる居合・剣術・棒術があります。また、上川原神道香取流棒術(熊谷市小島)は、江戸時代前期に当地に伝えられた剣術が在地化し神事として伝えられたものと考えられます。